

平成30年度

川内北小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①自分の思いや考えをまとめるノート指導の工夫
- ②家庭と連携した家庭学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員 校長:天羽文也 教頭:山口洋之 元木宏治
 低学年推進員:堀江 徳美 矢部貴美子 木内 健士朗
 教務主任 中学年推進員:四宮範子 坂東玲子
 長谷部 貴子 高学年推進員:田原佳奈 日浦孝則 特別支援学級:原豊子

校長

天羽 文也



(1)基礎的・基本的な知識技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 課 題	国語科や算数科における「知識・理解」については、一定の成果がみられる。	①基礎的・基本的な知識技能を確実に身につけることができる。	①全国調査・ステップアップテストで平均正解率が県平均以上		
	学力の二極化傾向がみられる。基本的な学習習慣が身につけておらず、学習の積み重ねができていない児童がいる。	①ノート指導を充実させ、学習のめあてとまとめを明確化する。 ②漢字や計算のミニテスト、九九の暗唱や音読の練習を家庭との連携を図りながら継続的に実施する。	①一週間に全員のノート点検 ②漢字・計算のミニテスト実施 ③九九・音読を家庭学習の課題として出し、取り組み状況を確認		

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 課 題	授業中自分の意見を進んで発表できる児童が増えてきた。	①目的に応じて、自分の考えを根拠をもとにわかりやすく話したり書いたりできる。	①学校評価アンケートで「自分の意見を考えたり、発表したりしている」の項目で当てはまる児童が90%以上		
	自分の考えや思いを筋道を立ててわかりやすく書いたり話したりすることに課題がある。	①自分の考えを筋道を立ててノートに書く機会を意図的に設ける。 ②ペア学習、グループ学習など、話し合いの場を多くする。 ③授業の中で自分の考えを説明する場を多く設定する。	①毎月左記のこたえを行い、指導方法を工夫する。 ②自分の考えを筋道を立ててまとめられているノートの紹介		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 課 題	与えられた課題には、真面目に取り組む児童が多い。	①宿題を忘れず提出することができ、課題や自主学習に進んで取り組むことができる。	①「10分×学年」の学習時間を超える児童が80%以上		
	自ら課題をみつけたり、課題解決に向けて主体的に取り組んだりすることが苦手である。また、家庭学習の時間が短い児童が多く、自主学習の内容が画一的である。	①「家庭学習の手引き」を提示し、家庭との連携を深めながら、家庭学習の習慣を定着させる。 ②「10分×学年」の家庭学習時間を推奨し、中・高学年を中心に自主学習ノートを充実させる。 ③毎月、家庭学習時間の目標が達成できている児童を表彰し、意欲を高める。	①学校アンケートの「毎日家で宿題や家庭学習をしていますか」の割合を85%以上 ②月に1回以上、良い自主学習ノートを学級で紹介		

平成30年度 学力向上ロードマップ

